

第8回定時総会

6月4日(火)、中経連は第8回定時総会を名古屋市内にて開催し、会員約280名が出席した。



豊田会長開会挨拶

一昨日、天皇皇后両陛下をお迎えして、愛知県森林公園にて「全国植樹祭」が開催されました。御即位されて最初の地方公務ということで、私も少々緊張して参加させていただきました。



植樹された苗木が、豊かな国土の基盤となり、新しい「令和」の時代を支えていくように、私ども中部経済界も、新たな成長の時代に向けた基盤づくりに一層努力していきたいと、気持ちを新たにしたいところでございます。

さて、最近の世界情勢については、米中の貿易摩擦や次世代技術をめぐる対立の激化など、国際社会を取り巻く状況が大きく変化しております。

日米貿易交渉の行方も懸念材料であり、わが国経済は、当面、外部要因に左右される状況が続くと見ております。

一方、AI・IoTなどデジタル技術や新素材は、市場の変革を起こし、産業の垣根を崩しはじめております。

経験則からは先行きを予想できない時代にあっ

て、私たちは、これまでの常識や成功に捉われず、行動を起こすことが必要であると思います。

こうした中、中経連では、将来を見据えた長期的視点とグローバルな視点での活動、会員との活発な議論、産学官連携の強化などを進め、2017年に再編した12の委員会の活動を活発化させてまいりました。

その結果、昨年度は計10件の提言書・報告書を策定し、公表するとともに、政府への働きかけなど具体的な実行活動を積極的に推進いたしました。

今年度につきましては、

- (1) イノベーションの対流・交流拠点の開設とプログラムの充実
 - (2) 将来を見据えた中部圏の広域的な地域づくりの推進
 - (3) 中部圏の未来を支える人材の育成
 - (4) 地域や会員との連携を強化する活動の推進
- 以上の4点を重点項目として位置付け、活動を展開してまいります。

イノベーションの触発に向けては、さまざまな分野から人々が集い、自由に議論し、新しい価値が生まれる「場」を目指し、名古屋・栄に、イノベーション

の新拠点「ナゴヤ イノベーターズ ガレージ」を開設いたします。

2050年を見据え、今年3月に策定した、「中部圏の将来ビジョン」については、産学官をはじめとする関係者に投げかけ、議論を深め、行政の計画への反映など、一つずつ実行に移してまいります。

また、人材育成については、教育界との意見交換やキャリア教育の拡充など具体策の展開、会員企業から講師派遣を行う「企業・人材プール」の拡充などを実行してまいります。

そして、今年度、何としても実現に向けて道筋をつけたいのが、中部国際空港二本目滑走路であります。2027年のリニア中央新幹線開業に間に合わせるには、今が勝負どころだと思います。さまざまな機会を通じて、二本目滑走路の必要性を中央に訴え、実現に向けたPRを行いたいと思いますので、会員の皆様におかれましても、ご支援・ご協力をお願いしたいと存じます。

また、防災・減災対策の推進につきましても、昨

年は各地で自然災害が発生し、中部圏においては、いよいよ南海トラフ地震の発生が現実味を帯びてきております。各企業による対策の促進に資する活動を行っていくとともに、国土強靱化税制のさらなる整備、社会インフラの耐震化促進を、会員の皆様と一緒に、国をはじめとした行政機関に対して、訴えてまいりたいと存じます。

私ども中経連は、「自ら声をあげて動く」との強い意志をもって活動しておりますが、会員の皆様全員のご理解とご支援、行動がなければ、国を動かし、課題を解決していくことは、到底できません。

ここにお集りの皆様と一緒に、中部経済界が一丸となって、声を大きくし、行動していくことが大変重要であると、強く思う次第であります。

日本を動かし、世界をリードする中部圏を目指して取り組んでまいりますので、是非とも会員の皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

定時総会概要

定時総会の議事では、「2018年度事業報告および附属明細書」「2019年度事業計画書および2019年度収支予算書」について報告を行った。また、「2018年度計算書類等(案)」「理事21名選任」「監事3名選任」について審議し、原案通り承認された。

議事終了後、副会長を務められた中村捷二氏、理事を務められた今井正氏、監事を務められた伊藤卓志氏に謝意を表明した。また、新しく副会長に選任される神野吾郎氏、理事に選任された相馬秀次氏の紹介を行った。

定時総会に引き続き、第31回理事会、記念講演会、会員交流会を開催した。

記念講演会では、一橋大学大学院経営管理研究科教授のクリスティーナ・アメージャン氏を講師に迎え、「海外から見た日本のビジネス常識の不思議」と題して講演いただいた。

アメージャン氏は、日本企業で勤務した経験談を紹介しながら、「今後、日本企業が国際社会で競争力を高めていくためには、これまでとは違う新しい価値を創造していく必要に迫られている。そのため、リスクを恐れず、多様な人材(性別・年齢・国籍)による多様な働き方を促し、活用していくことが不可欠である」と訴えた(本誌8月号に講演要旨を掲載予定)。



(総務部 亀井 勝彦)

新役員紹介

(役職名は2019年6月4日時点、敬称略)

会 長	豊田 鐵郎	(株)豊田自動織機 取締役会長
副 会 長	中西 勝則	(株)静岡銀行 取締役会長
	山浦 愛幸	(株)八十二銀行 取締役会長
	上田 豪	(株)百五銀行 代表取締役会長
	水野 明久	中部電力(株) 代表取締役会長
	佐々木 眞一	トヨタ自動車(株) 元副社長
	小川 謙	日本トランスシティ(株) 代表取締役社長 社長執行役員
	竹中 裕紀	イビアン(株) 代表取締役会長
	柘植 康英	東海旅客鉄道(株) 代表取締役会長
	村瀬 幸雄	(株)十六銀行 取締役頭取
	安藤 隆司	名古屋鉄道(株) 代表取締役社長
	大島 卓	日本ガイシ(株) 代表取締役社長
	中田 卓也	ヤマハ(株) 取締役 代表執行役社長
	碓井 稔	セイコーエプソン(株) 代表取締役社長
	安形 哲夫	(株)ジェイテクト 取締役社長
	中村 昭彦	(株)三菱UFJ銀行 取締役副頭取執行役員
	神野 吾郎	(株)サーラコーポレーション 代表取締役社長
理 事	相馬 秀次	日本製鉄(株) 常務執行役員名古屋製鉄所長
監 事	大津 正己	川北電気工業(株) 代表取締役社長
	森本 審	(株)名古屋観光ホテル 代表取締役社長
	富田 克典	(株)みずほ銀行 常務執行役員
事務局役員	小川 正樹	専務理事
	藤原 啓税	常務理事事務局長
	栗原 大介	常務理事

愛知県との懇談会

5月30日(木)、中経連は愛知県との懇談会を開催し、愛知県からは大村知事、森岡・松井副知事をはじめ15名、中経連からは豊田会長、中村(捷)・水野・中村(昭)副会長をはじめ12名が参加した。

豊田会長は、冒頭の挨拶で、「中小企業の事業持続性の向上、中部圏の持続的発展に必要なイノベーション、中部圏の将来ビジョン、南海トラフ地震などによる経済活動への影響の最小化など、中経連の重点事業に対して愛知県と課題認識を共有し、連携を進めていきたい」と述べた。また、「リニア中央新幹線の開業までに中部国際空港二本目滑走路の整備を間に合わせるため、大村知事には引き続きリーダーシップを発揮していただきたい」と要請した。

大村知事は、「自動車産業をはじめとする産業の活性化、イノベーションに必要なスタートアップに対する支援、陸・海・空の総合的な交通インフラの整備、中部国際空港二本目滑走路の実現のために必要な航空需要拡大などを推進していくためにも、



中経連と連携を図り、あらゆる課題に全力で取り組んでいきたい」と発言した。

自由懇談では、役割分担による効率性・生産性向上の観点から県境を越えた広域的な取り組みの必要性を述べるとともに、広域での取り組みを推進する協議会の設立への参画、当地域が弱いオープンイノベーションの推進などを中経連から要請した。

(企画部 岡戸 信之)

委員会活動

第44回Next30産学フォーラム

日時: 5月27日(月)

場所: 名古屋栄ビル 参加者: 31名

今回は、東海学園大学人文学部准教授の武市久美氏による講演、名古屋経済大学経済学部教授の菊池好行氏による講演&ワークショップを行った。

武市氏は、「新しい時代のメディアと子ども」と題して、情報機器の急速な進歩と普及により、電子メディアに溢れる環境が子どもたちの生活に与える影響についてさまざまな事例を紹介。今後新たに登場するメディアを子どもたちから排除するのではなく、大人たちがメディアリテラシーを高め、子どもたちがうまくメディアに順応し、かつ生活に活用できるよう、子どもとメディアの“新しい

関係”を考察していく必要があると強調した。

菊池氏は、「ラボラトリって何？ ラボを設計してみよう!」と題して、大学における実験室の設計について、過去の図像史料を使いながら、学内におけるさまざまな分野の研究者の出会いや交流の仕掛けを考慮した図面を紹介する等、ラボ(実験室)の歴史を概観。その後のワークショップでは、3~4人のグループに分かれ、講演の中で取り上げた図面を参考に、大学や職場において、業務が進めやすい、あるいは良好な人間関係をつくり出す空間としての“ラボ”の設計に取り組んだ。



設計したラボのグループ発表の様子

(イノベーション推進部 水田 晴久)